資料2

議題２　職員採用試験における面接官の体制について（春日井市提出）

市名	回答		
	(1)面接官の体制づくりのための工夫について	(2)受験者によって面接官の顔ぶれが変わるようなパターンで面接試験を実施している事例	
		有無	【「○」又は「予定している」と回答した場合】 実施方法について
名古屋市	毎年面接官に対して研修を行っている。	○	同一試験の口述試験において、複数の日程や、複数の面接室で試験を行っている。
豊橋市	本市では、１次試験では主査・主任級の職員を中心に、２次試験では管理職を中心に面接官を配置することで、なるべく多くの職員が従事できるよう工夫している。 技術職の受験者に対しては、面接官のうち１名は技術職員に加わっていただき、専門的な観点から評価できる体制を整えている。 また、面接官としてのスキルを身につけるため、毎年５名程度、面接官研修を受講させている。	○	１次試験において、事務職など受験生が多い職種については面接官が交代しながら実施している。 また、事前に評定票を確認することで、評価者間での評価の観点のズレを起こさないよう気をつけている。
岡崎市	特に無し。	○	人事部門の職員を基本としながら、試験区分に応じて面接官の構成を変えている。
一宮市	2次試験は非管理職、3次試験は管理職が対応しています。	○	採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています。
瀬戸市	人事部門と関係部門の試験官で面接を実施している。 ・　第２次試験（集団面接） …　人事部門職員＋採用職種に応じた関係部門職員（主に課長級） ・　第３次試験（個人面接） …　人事部門職員＋採用職種に応じた関係部門職員（部長級＋課長級）	○	春日井市と同様で、人事部門の職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施している。また、同一職種の受験者へは、全て同じ面接官が対応している。
半田市	人事部門の職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています（例：幼児教育士の試験であれば指導保育士を面接官とする）。 また、同一試験の受験者へは、全て同じ面接官が対応しています。	×	
春日井市	採用職種に応じ、人事部門の職員のほか、当該職種の職員を試験官に迎え、当該職種に求められる知見や専門性に関する質問を担ってもらっている。	検討中	
豊川市	・市町村振興協会研修センターが主催する「採用面接研修」に、面接予定となる職員を参加させています。 ・事務職の試験の面接官には、女性職員も含めています。	○	新卒を主な対象とした採用試験についてお答えします。 いずれの職種の試験においても、各職種の職員が面接官に含まれるようにし、また、最終試験以外では主に担当級から課長補佐級までの職員が、最終試験では部長級の職員が面接官となっています。
津島市	本市では、２次試験における面接官は課長級職員、３次試験（最終選考）における面接官は部長級職員で実施しています。 また、面接の進め方、役割分担、求める人物像について共通認識を醸成するため、事前に打ち合わせを実施している。	○	採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています。 （保育職対象の試験であれば保育職の職員を面接官とするなど）
碧南市	二次試験において集団討論試験を行っている。人事担当者だけだと評価に偏りが出てしまう可能性があるため、集団討論の採点者は若手から中堅職員で職種や性別のバランスを考慮し、人事担当部局で人選し、依頼している。	×	
刈谷市	研修は行っていないが、事前に打合せを行い、面接の手法や採点基準について共有している。	○	面接会場は同時に２部屋用意して実施している。 職種ごとに部屋を分けて実施しており、基本的には、同一職種に対して同じ面接官が実施するようにしている。（例　会場Ａは一般事務職、会場Ｂでは保育教諭　など） 面接官は人事課の職員を基本としており、職種に応じて面接官の構成を変えている。
豊田市	特になし	予定	主任面接官（管理職以上を想定）とサブ面接官（監督職・一般職を想定）を組み合わせたグループを複数作り、同時に面接を実施。

議題２　職員採用試験における面接官の体制について（春日井市提出）

市名	回答		
	(1)面接官の体制づくりのための工夫について	(2)受験者によって面接官の顔ぶれが変わるようなパターンで面接試験を実施している事例	
		有無	【「○」又は「予定している」と回答した場合】 実施方法について
安　城　市	特別な工夫はありませんが、第２次試験の最終面接では採用職種に応じて面接官の構成を変えており、面接の段取りや具体的な質問例、避けるべき質問事項等の共有を含めた簡単な事前打ち合わせを行っています。	○	議題１で回答した「受付面接試験」において、通常は１部屋、混雑時は２部屋にて実施しています。 面接官は１部屋につき２人ですが、２部屋の体制時には１部屋の体制時の面接官を各部屋に１人ずつ分散させ、少なくともどちらか１人による評価が必ず行えるよう運用しています。
西　尾　市	特にありません。	○	採用職種により面接官を変えています。同一試験の受験者は全て同じ試験官が対応しています。
蒲　郡　市	面接官の人員確保等のための特別な体制づくりは行っていません。	×	職種によって面接官が異なることはあるが、受験者によって面接官の顔ぶれが変わるような体制・方法はとっていない。
犬　山　市	特にありません。	○	人事部門の部課長に加えて、職種により、対象職種の職員を面接官に含めて実施しています。
常　滑　市	消防職・保育士教諭職以外の職種については、最終選考（３次試験）前の2次試験において、様々な部署の若手職員５人程度を面接官とした集団討論または集団面接を実施しております。また、求める人物像や合否決定の基準について、若手面接官の認識を統一するための会議を行っております。	×	
江　南　市	江南市では、人事担当職員を面接官とすることをベースに、専門的な職種（消防職、保育職、保健職）の選考において、当該職種の職員も含めて実施している。面接官として従事する職員には、研修センターが実施する面接研修を受講させている。	○	申込時に実施している受付時面接は、受付日毎に担当を輪番制としている。応募人数により２系統（面接官２名×２部屋）で実施する場合もある。２次試験以降は、同一の面接官が対応している。
小　牧　市	特になし	○	本市も技術職(土木)、消防職、保育士、保健師については、人事部門の職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えています。(各職種において、課長職以上の職員が面接官として参加している。)
稲　沢　市	人事部門の職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています（例：消防職対象の試験であれば消防長以下の消防職の管理職員、保育士職対象の試験であれば指導保育士を面接官とする）。 また、同一試験の受験者へは、全て同じ面接官が対応しています。	×	
新　城　市	様々な立場の視点を取り入れるため、毎年他所属の職員に面接官を依頼しています。 令和3年度の採用試験では、初期段階で副課長・係長級に、その次の段階で部長級・課長級に面接官を依頼する予定です。 できる限り毎年異なる職員に依頼し、特定の職員に負担がかからないよう配慮しています。	×	
東　海　市	・第２次試験について、一般行政職は、人事部門の職員に加え、役職、年齢、性別等のバランスを考慮し、全職員の中から選出しています。保育職及び消防職は、各部署に選出依頼をしています。 ・面接官に選出された職員に対して、事前に説明を行っています。	○	・人事部門の職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています。 ・第２次試験について、一般行政職では、会議室を２部屋用意し、受験者によって面接官の顔ぶれが変わる方法で実施しています。その際には、初回の面接にすべての面接官が同席し、基準統一を図っています。
大　府　市	面接を行う人事係の職員と、受付に関する打合せを実施。	○	業務の状況に応じて、係長以下の人事係職員で、随時、面接を実施。
知　多　市	２次試験において、人物重視の採用や職員育成の観点から、人事担当課の職員のほかに、他課の課長補佐級の職員（同一年度内は同じ職員）数名に面接官を依頼しています。その際には、部門や性別に偏りがないようにしています。	○	職種によって２次試験の面接日を分けています。また、２次試験、３次試験の個人面接では、技術職などの専門職種について、当該職種の面接官を加えています。
知　立　市	採用試験実施方法や合否を決定する任用試験委員会を設けており、委員は部長級で実施をしています。 また、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています。	×	
尾 張 旭 市	特に体制づくりは行っていない。	○	保育職については、保育士（園長、副園長）を面接官に入れている。 技術職については、技師等の専門職を面接官に入れている。

議題２　職員採用試験における面接官の体制について（春日井市提出）

市名	回答		
	(1)面接官の体制づくりのための工夫について	(2)受験者によって面接官の顔ぶれが変わるようなパターンで面接試験を実施している事例	
		有無	【「○」又は「予定している」と回答した場合】 実施方法について
高　浜　市	当市では、個別面接において、民間面接委員（２名）をお願いしている。また、集団面接では、部長職に加え、女性職員や中堅職員を面接官として依頼し、実施している。	×	
岩　倉　市	新しく面接官となる職員を対象に研修センターの採用面接研修を受講していただき、面接技術の向上を図っています。 また、毎試験ごとに面接官全員に就職差別につながるおそれのある14事項とその質問例を説明し、適切な面接試験ができるような体制を整えています。	×	
豊　明　市	２次面接では、現人事担当職員のみでなく元人事担当職員に協力をしてもらい、実施しています。また、最低１名は女性の面接官を配置するようにしています。	×	
日　進　市	職級及び男女構成について考慮している。 各会場に採用担当が1人が入るようにしている。	○	職級及び男女構成について同一条件となるようにしている。 各会場に採用担当が1人が必ず入るようにしている。
田　原　市	総合能力試験において、第1次試験の面接官については、主任級から課長補佐級までの面接官を庁内で選出している。第2次試験の面接官はを課長級、第3次試験を部長級以上で面接試験を実施している。　第1次試験においては、人事課職員及び女性職員の面接官を必ず1人を入れている。第2次試験においても女性職員の面接官を必ず1人を入れている。 また、毎年度課長級の面接官1名に、県研修センターの採用面接研修を受講させている。	○	総合能力試験第1次試験の面接試験は、受験者を３グループ程度にわけて行うので、顔ぶれは異なる。各グループの面接官については、主任級から課長補佐級までの職位、女性職員を入れる、人事課職員を入れるなど、バランスをとるようにしている。また、面接試験の事前打ち合わせにおいて、採点基準、採点方法等の調整を諮っている。
愛　西　市	特になし	○	面接官は、基本は市長、副市長、教育長、企画政策部長の4名で実施しているが、専門職の採用の場合に担当部長にも面接官をお願いしている。 例えば、保育士→健康子ども部長、土木技師→産業建設部長など
清　須　市	特になし	○	人事部門の職員を基本としながら、保育職の個人面接では、保育長も面接官として加わっている。
北名古屋市	特にありません	○	人事秘書課の職員を基本とした上で、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています。（例：保健師であれば保健師の職員を面接官に加える。） また、集団面接で応募者が多数の場合、面接会場を同時に２部屋用意し、面接官も２班に分けて対応します。そのため、１次試験、２次試験、最終試験の全てで面接官の顔ぶれが変わります。
弥　富　市	面接試験の約２週間前に自己ＰＲ書や性格特性検査結果、就職差別防止のための配慮すべき事項等の資料を配布し、面接試験の参考にしてもらっている。	○	幹部職員を基本としながら、採用職種に応じて面接官の構成を変えて実施しています（例：保育士対象の試験であれば、幹部職員と保育所長を面接官とする）。また、同一試験の受験者へは、すべて同じ面接官が対応しています。
みよし市	人事部門の職員を面接官として実施しています。ただし、保育士職試験における面接官には、指導保育士を加えて実施しています。	×	
あ　ま　市	採用事務担当者が研修センターでの採用面接研修を受講し、ノウハウを各面接官にも共有している。	○	７月実施の第１次試験の集団面接試験では、保育士とその他の職種で面接官の構成が違います。各回採用試験の第２次試験は各職種で面接官の構成が多少変わります。
長久手市	体制づくりとして何か特別なことは実施していませんが、同一職種の職員に面接官をお願いしています。	検討中	過去に一次面接を集団面接で実施し、受験者を複数グループに分け、それぞれ異なる面接官で面接を実施した。